

「(仮称)遠軽ウィンドファーム事業 環境影響評価方法書」に対する質問事項及び事業者回答

1. 「第1章 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地」に関する質問

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
1-1	—	前倒し調査	1次	「前倒環境調査を適用した適切かつ迅速な環境影響評価の実施について (H30, NEDO https://www.nedo.go.jp/library/environmental_overview_guidebook.html)」に示されるような前倒し調査を実施(又は予定)している場合は、環境項目ごとに調査の実施時期・内容をご教示ください。	本事業においては、前倒し調査は実施いたしません。
1-2	—	相互理解等	1次	関係自治体や住民の事業への理解を得るために、積極的な情報提供が必要と考えますが、現時点で事業者が考える相互理解の促進方法をご教示ください。	地域住民は自治会を通すなどし、地域住民や関係自治体まで事業計画の進捗に応じた情報の共有や進捗の報告等を行い、本事業への相互理解を促進してまいります。
1-3	—	図書の公表	1次	①貴社ウェブサイトにおける、本方法書のインターネットでの公表期間は意見提出期限までとしていたほか、電子縦覧図書のダウンロードや印刷について不可としていました。 これらについて、図書の公表に当たっては、広く環境保全の観点から意見を求められるよう、印刷可能な状態にすることや、法に基づく縦覧期間終了後も継続して公表することにより、利便性の向上に努めることが重要と考えますが、事業者の見解を伺います。 ②環境省は、縦覧又は公表期間を超えると、環境影響評価図書の閲覧ができなくなっていることを踏まえ、国民の情報アクセスの利便性向上や情報交流を図ること等を目的に「環境影響評価図書の公開について」(環境省大臣官房環境影響評価課長通知、H30.4.1施行 https://www.env.go.jp/press/105337.html R4.6.30改訂 http://assess.env.go.jp/files/0_db/seika/1033_01/file1.pdf)を発出し、事業者の協力を得て、環境影響評価図書の公開を進めることとしていますが、本通知に対する事業者の見解についてご教示ください。	①インターネットでの公表期間は、広く環境保全の観点から意見を求められるよう法定期間に加えて、意見書の提出期日まで閲覧可能といたしました。 電子縦覧図書のダウンロードや印刷は、第三者による無断複製等の著作権に関する問題、不正な利用等悪用の恐れを防ぐ目的から控えております。前述の通り環境影響評価図書を印刷可能な状態にすることや、法に基づく縦覧期間終了後も継続して公表するとは考えておりません。 ②相互理解が重要であると考える一方で、①と同様の回答になりますが、第三者による無断複製等の著作権に関する問題、不正な利用等悪用の恐れがあるため、意見提出期限終了後の継続して公開することは考えておりません。なお、関係地域の住民の方等から問合せについては、その内容を踏まえて個別に説明する等の対応をいたします。

2. 「第2章 対象事業の目的及び内容」に関する質問

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
2-1	13	b. 緑化に伴う修景計画	1次	①「改変部分のうち、切盛法面は平面緑化(種子吹付け等)を実施し、・・・(中略)・・・緑化に当たっては、用地管理者と協議を行い、植生の早期回復や安全性確保の観点等から、極力在来種を使用した配合及び周辺環境に配慮した適切な手法について検討を行う」とありますが、外来種を使用する可能性があるものかご教示ください。また、外来種を使用する可能性がある場合は、検討されている種をご教示いただくとともに、侵略的外来種には該当しないかについての見解を伺います。 ②また、道内在来種であっても、遺伝子保全上、極力、現地に近い場所を産地とする種子や苗木を使用することが望ましいと考えますが、この点についての事業者の見解を伺います。 ③記載のある協議先の「用地管理者」は、風力発電を設置する国有林を管理する森林管理署でしょうか。	①②緑化の際に使用する種については、現段階では種の選定までは検討していないことから、外来種を使用する可能性があります。基本的には在来種を想定しております。可能な限り在来種の中でも対象事業実施区域が立地する地域に近い産地の種子の採用を検討し、詳細については、今後の関係機関と協議の上、計画いたします。 ③ご理解の通りです。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
2-2	13	2. 交通に関する事項(1) 工用道路	1次	「また、各風力発電機の設置箇所に至るアクセス道路の整備に当たっては、既存道路の拡幅等（伐採・造成等）は最小限に留めるとともに、近隣住民に対し事前に十分な説明を行う」の記載について、ここで言う「アクセス道路の整備」範囲には、p.14の図に示される「輸送ルート」やp.15の図に示される「工事関係車両の主要な走行ルート」を含む必要がないことを確認済みであると解してよろしいでしょうか。そうではない場合は、拡幅等を行う可能性のあるルートをご提示ください。	アクセス道路として利用予定の既存道路における拡幅等については、現時点で想定している箇所は方法書p.6の「改変予定箇所」として図示いたしました。なお、現時点では詳細設計を行っていないことから、改変予定箇所については今後の現地調査の結果や関係機関との協議等を踏まえて変更する可能性があります。
2-3	17	(3)工事中の排水に関する事項② 生活排水	1次	「対象事業実施区域もしくはその近隣に設置する仮設の工事事務所からの生活排水は、手洗水等を想定するが、微量であるため、浸透枡等を設け自然浸透させる等適切に処理する。」について、浸透枡を設置するにあたって自然環境に配慮することを検討している事項がありましたら、その内容についてご教示ください。	工事事務所からの生活排水については浸透枡等を設け、自然浸透させる計画ですが、排水は手洗水等の微量に限られることから、自然環境への影響はほぼないものと考えております。
2-4	17	(3)工事中の排水に関する事項	1次	工事中の用水は、車両洗浄等に使用するとされていますが、車両洗浄により発生した汚水の排水に係る計画をご教示ください。	車両洗浄を行う場合には沈砂池等を設置し、土砂等を沈降させ、上澄みの水を排水処理するなどの対応を計画いたします。
2-5	17	(4)土地利用に関する事項	1次	風力発電機組立用ヤードは造成後に一部緑化を行うとされていますが、緑化を行うか否かは、何を基に決定されるのでしょうか。また、緑化を行わない箇所は裸地のままとするのでしょうか。どのような対応を想定されているかをご教示ください。	風力発電機組立ヤードの法面部分について緑化を実施し、ヤードは裸地もしくは砂利敷きを想定しております。なお、緑化は可能な限り造成時の表土等を活用し、造成により生じた切盛法面は必要に応じて種子散布吹付け工等による早期緑化を計画いたします。
2-6	17	(5)樹木伐採の場所及び規模	1次	経済産業省の「発電所に係る環境影響評価の手引」において方法書の「①工に関する事項」においては「土地改変面積、盛土量、切土量及び樹木伐採面積に係る想定を記載する。」こととされておりますが、この内「樹木伐採面積」はどの程度を想定されているか、ご教示ください。	樹木伐採面積は、29.79haを想定しています。
2-7	19	(7)残土に関する事項	1次	残土は、対象事業実施区域の土捨て場で処理を行う予定とされていますが、p6の図2.2-1(3)に示された土捨て場の位置には、p43の図3.1-8によると朝日の沢川が確認され、残土の河川への流出が懸念されます。このため、土捨て場の位置をどのように決定したのか、また、残土の処理方法や河川流出防止対策を具体的にどのように想定しているのかをご教示ください。	土捨て場の位置は、土砂崩れが発生しにくい地山の傾斜が緩い場所を選定しております。残土の処理方法は、盛土の高さを2m以下を予定し地山への負荷をあまり与えないよう考えております。また、河川流出防止策として、沈砂池等の排水設備を設置する事により下流域の河川へ残土流出の防止を図ってまいります。
2-8	21	① 検討対象エリアの設定	1次	検討対象エリアとして設定した理由として、風況条件及び社会インフラ整備状況を確認したとされていますが、当該条件に当てはまる地域は、国内に多数存在すると思われそうですが、図2.2-9の範囲を検討対象エリアに設定された理由について、差支えない範囲でご教示ください。	開発ノウハウに関する重要な情報になりますので、全てをご回答するのは難しくございますが、風況条件及び社会インフラ整備状況に加え、関係自治体への事前ヒアリング、自然公園地域及び自然環境保全地域が周囲に存在しないこと等の状況を踏まえ、検討対象エリアを設定しております。
2-9	21	② 法令等の制約を受ける場所の確認	1次	確認された法令等の名称をご教示ください。なお、対象として想定した場所が確認されなかった法令等を含めてご回答願います。	対象事業実施区域の検討時において、確認した法令等は「国土利用計画法の都市地域」、「自然公園法の国立公園/国定公園」、「北海道立自然公園条例の道立自然公園」、「自然環境保全法の原生自然環境保全地域/自然環境保全地域」、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約の自然遺産」、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律の鳥獣保護区/特別保護地区」、「森林法の保安林」、「国有林野における緑の回廊、保護林」、「砂防指定法の砂防ダム」、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律の土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域」です。このうち、方法書p.25に記載の鳥獣保護区、砂防ダム、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域、保安林以外は検討対象エリアにおいて確認されませんでした。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
2-10	21 29	② 法令等の制約を受ける場所の確認 図2.2-14(3) 対象事業実施区域及び風力発電機の設置予定位置(図2.2-12との重ね合わせ)	1次	検討対象エリアに鳥獣保護区、砂防ダム、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域及び保安林が存在することを確認しており、この内、鳥獣保護区と土砂災害警戒区域は、対象事業実施区域と一部重複しております。法令等の制約を受ける場所として、なぜ、この2つの区域を確認されたのか、理由をご教示ください。	対象事業実施区域の検討時において確認した法令はQ2-9の回答のとおりです。このうち「鳥獣保護区、砂防ダム、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域及び保安林」が検討対象エリア内に存在していたことから、方法書p.21においてはその旨を記載いたしました。 なお、鳥獣保護区域には、更に特別保護地区や特別保護指定区域が設定されておりますが、これらの特別保護地区とは異なり、鳥獣保護区は広範に設定されており、また規制の概要としては狩猟が認められないものとなっております。 また、土砂災害警戒区域は、既設道路路上にかかっているものです。アクセス道として使用する可能性はありますが、その場合には安全面で十分な土木工事対策を講じた上で使用することを念頭にしております。上記を踏まえつつ、安全性を担保した上で事業を実施することが可能であると考えた為、事業実施区域と重複しておりますが含めることにいたしました。 なお、これらの区域は、風力発電機の設置予定位置からは除外し、施工内容は風力発電機等の輸送のための既設林道の拡幅のみとした計画といたしました。
2-11	21	③ 環境保全上留意が必要な場所の確認	1次	環境保全上留意が必要な施設として、学校及び福祉施設以外に確認対象としたものはないのでしょうか。学校及び福祉施設以外に対象としたものがある場合には、その内容もあわせてご教示ください。	「発電所に係る環境影響評価の手引」(経済産業省、令和6年)において、配慮すべき保全対象として『住居専用地域、学校、病院、福祉施設等の環境影響を受けやすい地域又は対象』とあることから、学校、病院、福祉施設及び住宅等を確認対象といたしました。なお、対象事業実施区域及びその周囲には、用途地域の指定及び病院はございません。
2-12	21 30	④ 対象事業実施区域等の設定	1次	①「「①検討対象エリアの設定」から「③環境保全上留意が必要な場所の確認」までの検討経緯を踏まえ、図2.2-14のとおり「対象事業実施区域及び風力発電機の設置予定位置」を設定した。」との記載がありますが、環境保全上留意が必要な施設(学校及び福祉施設)の確認結果を対象事業実施区域の設定及び風力発電機の設置予定位置の設定にあたり、どのように活用されたのかをご教示ください。 ②「「①検討対象エリアの設定」から「③環境保全上留意が必要な場所の確認」までの検討経緯を踏まえ、図2.2-14のとおり「対象事業実施区域及び風力発電機の設置予定位置」を設定した。」との記載があります。また、「③環境保全上留意が必要な場所の確認」においては、検討対象エリアにおける環境保全上留意が必要な施設及び住宅等の分布状況について示されており、「環境保全上留意が必要な施設(学校及び福祉施設)が存在する。」と記載されております。 対象事業実施区域の設定にあたり、住宅等との分布状況の確認結果をどのように活用されたのかをご教示ください。	①②環境保全上留意が必要な施設(学校及び福祉施設)の確認結果については、対象事業実施区域の設定ではなく、風力発電機の設置予定位置の検討に際し活用いたしました。 活用の際には、風力発電機の設置予定位置について、方法書p.21の注釈のとおり、500mの離隔を確保するように検討いたしました。現時点において予定している風力発電機の位置は、最寄りの住宅等までの距離は約1.6km、環境保全上留意が必要な施設(学校及び福祉施設)までの距離は約6.0kmであり、500mの離隔を十分確保した事業計画であることを確認いたしました。
2-13	27	図2.2-14(1) 対象事業実施区域及び風力発電機の設置予定位置(図2.2-10との重ね合わせ)	1次	風力発電機No.11の東側にある風速6.5m/s以上の範囲に風力発電機の設置が予定されていない理由をご教示ください。	等高線の間隔が狭く傾斜地であるため、風力発電機組立用ヤードの施工が難しく、風力発電機の設置を予定いたしませんでした。

3. 「第3章 対象事業実施区域及びその周囲の概況」に関する質問

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
3-1	43	図3.1-8 主要な河川及び湖沼の状況	1次	<p>本図では、河川上に風力発電機が位置していません。実際には河川上に位置しないよう計画されている場合には、その離隔状況がわかる図をお示しください。</p> <p>また、河川上に計画されている場合には、なぜ、そのような計画とされたのかをご教示ください。</p>	<p>本方法書の作成に当たっては、対象事業実施区域及びその周囲の水域の文献資料調査として、「国土数値情報（河川データ）」を使用しております。</p> <p>一方で事業計画の検討に当たっては、環境アセスメントデータベースEADAS（イーダス）及び国土地理院地図を元とした机上検討の他、現地踏査を実施し、いずれの場合でも河川上流の水流が見られなかったため、本図の計画といたしました。</p> <p>なお、今後の環境調査において方法書p.190のとおり、常時水流の状況を確認し、その現地調査結果を踏まえ、河川における直接変化がないことを確認する考えであり、常時水流の状況の現地調査結果については準備書においてお示しいたします。</p>
3-2	57	(1)動物相の概要	1次	<p>以下についての事業者の見解と、これを受けて調査手法へ反映した部分があればお示しください。</p> <p>①センシティブティマップにおいて、対象事業実施区域を含むメッシュは重要種のおジロワシ、オオワシ及びクマタカの確認により「注意喚起レベルB」となっていること。</p> <p>②対象事業実施区域の周囲において、おジロワシ及びオオワシの1～10羽の冬季滞在が確認されていること。</p> <p>③対象事業実施区域を含むメッシュにおいて、ハチクマ、おジロワシ、ハイタカ、オオタカ、クマタカ及びハヤブサの生息が確認されていること。</p>	<p>①～③センシティブティマップで確認された希少猛禽類の種及び滞在等の時期に留意し、希少猛禽類では定点観察法による調査を実施いたします。対象事業実施区域及びその周囲における希少猛禽類の生息状況、渡り鳥の飛翔状況について、そのリスクの程度も含めて調査によって把握し、事業実施による影響を極力低減するよう努めてまいります。</p>
3-3	61 62	<p>図3.1-17(1) 日中の鳥類の渡りルート（ガン・カモ・ハクチョウ類）</p> <p>図3.1-17(3) 夜間の鳥類の渡りルート</p>	1次	<p>対象事業実施区域の周辺にガンカモ類や猛禽類の渡りルートが見られるほか、夜間の鳥類の渡りルートが区域と重複しています。渡りの状況を把握できるよう、調査手法に反映する必要があると考えますが、事業者の見解を伺います。特に夜間の渡りの状況は正確な把握が難しいと思われませんが、何か調査手法を検討されておりましたら、その内容も併せてご教示ください。</p>	<p>対象事業実施区域は方法書p.61のとおり、日中の渡りのルートからは離れておりますが、渡りの中継地となりやすいダムや河川を確認できる調査定点を設定いたしました。夜間の渡り鳥についてはICレコーダーを設置し、変更区域上空の通過の有無を確認いたします。</p>
3-4	83 85	<p>図3.1-25 現存植生図</p> <p>図3.1-26 文献その他の資料調査による植生自然度</p>	1次	<p>①植生自然度9の区域に位置している風力発電機（配置計画位置）が4箇所、対象事業実施区域の北西側にあります。当該4箇所における植生としては、「2 エゾイタヤシナノキ群落」及び「5 下部針広混交林」だと思われませんが、調査の結果、配置計画位置に自然度9の植生が確認された場合、変更は回避されるのでしょうか。</p> <p>②また、直接的な樹木伐採が行われなくても土地の変更による影響を受ける可能性があると思われませんが、なぜ配置の検討時に植生自然度9の区域を回避しなかったのかについて、ご教示ください。p.27の図2.2-25に示される風況の状況においては、対象事業実施区域の東側の範囲においても風況は変わらないように見えますが、地形や地質の関係等の要因により、東側の範囲は設置が困難な状況なのでしょうか。</p>	<p>①調査の結果、自然度9の植生が確認された場合には、回避又は低減を図ってまいります。</p> <p>②地形等の要因に加えて、風力発電機の安全性から風力発電機間の離隔距離を確保するため、植生自然度9の区域に配置いたしました。東側の範囲も設置が困難な状況ではないと思われしますので、方法書p.85に図示しております風力発電機の設置予定位置の変更を検討するなど、今後の調査、予測及び評価の結果等を踏まえて、植生自然度9の樹木伐採及び土地の変更による影響の回避又は十分な低減を図ってまいります。</p>

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
3-5	95	図3.1-29 食物連鎖模式図	1次	第4章p.226の生態系の調査手法の「表4.2-2(36)注目種選定のマトリクス表」に記載のある種（フクロウ、クマタカ、オオワシ、オジロワシ、ユキウサギ、カラ類、タヌキ）の内、フクロウ、オオワシ、カラ類及びタヌキに関しては本図に記載がありませんが、本地域の典型性及び上位性種を確認できるようにするためにも、本図に記載する必要はないでしょうか。	食物連鎖模式図には代表的な種の一例のみを記載してあります。ご指摘を踏まえ、食物連鎖模式図に追加し、別添資料北海道1次Q3-5にお示しいたします。
3-6	98	表3.1-38 眺望点の概要	1次	各眺望点からの最大垂直視野角についてご教示ください。	各眺望点と最寄りの風力発電機までの距離を基に最大垂直視野角を算出いたしました。可視領域図により不可視である「瞰望岩」を除く各眺望点からの最大垂直視野角は以下のとおりです。 なお、最大垂直視野角の算出にあたっては、安全側での条件として、風力発電機と眺望点との標高差及び風力発電機の手前に存在する樹木や建物等の遮蔽物は考慮しておりません。 <ul style="list-style-type: none"> ・太陽の丘えんがる公園（見晴牧場）：1.3度 ・薬師山：1.8度 ・道の駅遠軽森のオホーツク：1.3度 ・社名淵地域公民館：3.0度 ・若松公民館：2.6度 ・清川会館：1.4度 ・栄野公民館：2.1度 ・湯の里公民館：1.5度 ・遠軽町役場丸瀬布総合支所：1.5度
3-7	103	表3.1-40 人と自然との触れ合いの活動の場及びその概要	1次	人と自然とのふれあい活動の場については、公的なHPや観光パンフレット等に掲載されている情報を元に抽出したとされていますが、選定にあたり、関係市町村や関係団体にヒアリングは実施しているでしょうか。している場合はその概要を、していない場合はヒアリングをせずに人と自然とのふれあい活動の場が網羅できていると考えた理由についてお示しください。	人と自然との触れ合いの活動の場の選定について、現段階では、関係市町村等へのヒアリングは実施しておりません。本方法書の縦覧によって、関係機関や地元の方からご意見を承り、それらを踏まえ、現地調査前に改めて関係市町村に直近の状況を含めてヒアリングの上、最終的な調査地点を検討いたします。
3-8	114	(1)水道用水としての利用	1次	対象事業実施区域及びその周囲に取水地点はないとのことですが、下流域に位置する場合には、取水地点及びその集水域を明示した図をお示しください。また、取水地点は水道事業ビジョンによる確認のみで自治体へのヒアリングはされていないということでしょうか。今後実施を予定されておりますでしょうか。ヒアリングをされていない場合には、自治体にヒアリングを実施する必要性及び今後の実施予定に係る事業者の見解をご教示ください。	遠軽町経済部水道課へヒアリングし、最新の水道取水地点を確認いたしました。対象事業実施区域周囲及びその下流域に位置する水道用水の取水地点及び集水域について、別添資料北海道1次Q3-8にお示しいたします。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
3-9	114	(2)農業用水としての利用	1次	①「湧別川の河川水を農業用水として利用している」との記載について、これは湧別川の支流（サナブチ川等）も含まれますでしょうか。 ②農業用水に係る取水地点の確認状況及び、取水地点が下流域に位置するかについてご教示ください。また、取水地点が下流域に位置する場合には、取水地点及びその集水域を明示した図をお示しください。	①②遠軽町農政林務課へのヒアリングによると、農業用水は主に湧別川を利用しているとのことですが、取水地点や利用状況等の詳細は把握していないとのことでした。そのため、湧別川の支流（サナブチ川等）が含まれるのか、また、取水地点が下流域に位置するかについても詳細は把握出来ておりません。
3-10	114	2. 地下水の利用状況	1次	①水道の取水地点は区域及びその周囲にはないとされていますが、遠軽町の水道所管部局に確認された結果であると解してよろしいでしょうか。 ②p.119の図3.2-7において、対象事業実施区域周囲に住宅等が存在する旨示されておりますが、飲用井戸の有無についての確認状況及び今後の対応方針についてご教示ください。	①遠軽町経済部水道課へヒアリングし、対象事業実施区域及びその周囲において、水道用水の地下水の取水地点はないことを確認いたしました。 ②個人所有の井戸について、位置や利用状況は確認できておりません。今後の現地調査において確認に努めます。
3-11	117	図3.2-6 主要な道路と交通量観測区間	1次	p.15に示された工事関係車両の主要な走行ルートの全ルートを対象とした範囲の図をお示しください。 また、主要な走行ルートの交通状況について、本図の範囲外に位置することにより表3.2-9主要道路の交通状況に示されていない情報がある場合には、その内容もあわせてご教示ください。	方法書p.15の範囲における主要な道路と交通量について、別添資料北海道1次Q3-11にお示しいたします。
3-12	119	図3.2-7 配慮が特に必要な施設の位置及び住宅等の配置の概況	1次	p.15の図2.2-6(1)に示された工事関係車両の主要な走行ルートを網羅する範囲を対象とする必要はないと判断された理由をご教示ください。	方法書p.15の生コン工場から工事関係車両が走行した場合においても、一般道道711号及び主要地方道137号における工事関係車両の走行台数に変わりはありません。そのため、図3.2-7の図郭において、配慮が特に必要な施設や住宅等の位置を把握いたしました。
3-13	126	図3.2-9 水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定状況	1次	湧別川には、環境基準の類型指定（河川A類型、生物A類型）がされていますが、本事業が湧別川の水質に影響を及ぼすかについて、事業者の見解をお示しください。	湧別川の支流であるカクレ沢川において、水質及び魚類調査地点を設定しております。今後の現地調査、予測及び評価を通じて、まずはカクレ沢川に沈砂池からの排水が流入するか否かを確認いたします。
3-14	149	⑥ 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づく鳥獣保護区等	1次	対象事業実施区域の一部が瀬戸瀬鳥獣保護区（森林鳥獣生息地）と重なっていますが、当該重複部分の施工内容（どのような改変を予定されているか）と施工時における野生鳥獣への配慮内容についてご教示ください。	施工内容は、風力発電機等の輸送及び工事関係車両が走行するため、既設林道の拡幅を予定しております。現時点において、3つのアクセス道候補を想定しておりますが、どのアクセス道候補を利用するか決まっておりません。また、詳細設計も実施しておりませんので、どの程度の拡幅が想定されるかお答えが難しいことから、準備書において詳細をお示しいたします。なお、その詳細設計の検討時には可能な限り改変を最小限に抑える、樹木の伐採を最小限とする等の配慮を行います。
3-15	161	図3.2-17 砂防ダム、土砂災害危険箇所、山地災害危険地区、土砂災害警戒区域	1次	①対象事業実施区域内に土石流危険区域や土砂災害警戒区域が含まれており、土砂流出による水質や生態系への影響が懸念されますので、影響の回避・低減に対する事業者の見解をご教示ください。 ②風力発電機設置のための作業用道路が3本配置されていますが、区域の中央部に位置する1本については「土石流危険区域」であることが示されており、また、その西側（山頂側）は比較的急こう配な斜面がある状況です。このような状況を鑑み、中央の作業用道路は設置しないことも検討されているものか、状況についてご教示ください。	①土石流危険区域や土砂災害警戒区域の指定地域が存在することを踏まえ、今後の詳細設計において可能な限り改変を最小限に抑える等の配慮を行います。また、事業の実施に当たっては沈砂池等の排水設備を設置する事により下流域の河川への濁水の流入防止に努め、水質や生態系への影響の低減を図ります。 ②ご指摘の通り、区域の中央部に位置する作業用道路は、北側及び南側に位置する作業用道路と比べて難易度が高いと思料しております。今後の現地調査等を踏まえて、作業用道路のルート設計をします。中央部の作業用道路については設置しないことも含めて検討してまいります。

4. 「第4章 対象事業に係る環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法」に関する質問

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
4-1	167	表4.1-4 環境影響評価の項目の選定	1次	<p>①建設機械の稼働を要因とする振動について選定されていませんが、「発電所に係る環境影響評価の手引」(p.217)においては、「工事用道路等を改変する場合であって、かつ、当該工事場所の近傍に民家等が存在し、環境保全上の支障が生じることが予想される場合」には環境影響評価項目として設定するとされています。</p> <p>本事業では、対象事業実施区域に隣接した住宅等が存在しており、振動による影響が懸念されますので、環境影響評価の項目として選定する必要がないと判断された根拠をご教示ください。</p> <p>②建設機械の稼働を要因とする水環境(水質及び底質)について選定されていませんが、図3.1-8(P48)では、風力発電機の位置が、河川と重複していますので、環境影響評価項目として選定する必要がないと判断された根拠をご教示ください。</p>	<p>①対象事業実施区域に住宅等が隣接していますが、当該住宅の付近における工事は道路の拡幅程度であり、振動が発生するような工事は行いません。風力発電機の建設工事において、風力発電機のヤード位置においては振動が発生する工事を行います。 「風力発電所の環境影響評価の参考項目の見直しについて」(令和2年5月)において、0.75万~5万kWの風力発電所の工事サイトを対象とした建設機械の稼働による振動の実測調査の結果、調査対象としたすべての工事サイトにおいて、振動の環境基準等を大きく下回っておりまして、この結果を踏まえ、令和2年8月に発電所アセス省令が改正され、「建設機械の稼働」に係る「振動」の項目が参考項目から削除されていることを踏まえ、建設機械の稼働に伴う振動は選定していません。</p> <p>②Q3-1の回答のとおり、現地踏査において河川上流の水流は見られませんでした。なお、今後の現地調査においては常時水流の状況を確認し、その結果を踏まえ水環境への影響を検討いたします。</p>
4-2	171 172	表4.2-1(1)(2) 専門家等からの意見の概要及び事業者の対応	1次	<p>資料編2-4に記載のウスリホオヒゲコウモリ(環境省レッドリスト:絶滅危惧II類(VU))は、2名の専門家から分布の可能性に係る情報はなかったものでしょうか。</p>	<p>ウスリホオヒゲコウモリは対象事業実施区域及びその周囲での生息分布に関する情報はなく、専門家の聴取でも直近年における対象事業実施区域及びその周囲での生息は確認されておりません。ただしコウモリ類は長距離移動の可能性を含むとし、専門家の指摘を踏まえ最新の知見を反映した上で、網走市及び置戸町における確認記録を記載しております。</p>
4-3	172	表4.2-1(2) 専門家等からの意見の概要及び事業者の対応(専門家B)	1次	<p>①専門家から「ナキウサギは・・・(中略)・・・対象事業実施区域に生息している可能性は低い。現地で生息環境等を確認した場合はコールバック法等の追加調査を検討すること」との意見があります。</p> <p>ナキウサギが生息するような環境(岩場等)は現段階で確認されているのか、ご教示ください。</p> <p>②オオイタドリが枯れ始める時期におけるコウモリ類の確認可能性について意見がありますが、オオイタドリの枯れ始める時期は何月頃か、また、その時期にコウモリ調査は実施されるのかご教示ください。</p>	<p>①事前の現地確認において、ナキウサギが生息するような環境については現時点では確認されませんでした。今後の現地調査にてナキウサギの生息に適した環境が確認された場合は、コールバック法等の追加調査を検討いたします。</p> <p>②オオイタドリが枯れ始める時期は年による変動の可能性はあるものの概ね10~11月であり、枯れたオオイタドリの葉を目視により観察する必要があります。そのため、秋季の哺乳類の任意観察調査を該当の時期に実施し、その中で対応する考えです。</p>
4-4	173	表4.2-1(3) 専門家等からの意見の概要及び事業者の対応(専門家C)	1次	<p>①オジロワシの繁殖場所について専門家から情報提供がありますが、最も南側の風力発電機の予定位置から4km程の場所に位置しているものと思われます。今後の調査で営巣が確認された場合、当該つがいに関する飛翔経路等の調査以外に、何らかの追加調査を予定している場合にはその内容をお示しください。また、バードストライクの防止に向けて、アセス結果をどのように生かし、どのような対策を検討される予定か、ご教示ください。</p> <p>②鳥類の夜間調査について、鳴き声により把握可能な種に関しての記載がありますが、鳴き声による把握が不可能な種に対してはどのような調査手法を検討しているのか、ご教示ください。</p>	<p>①オジロワシの繁殖場所については、最も南側の風力発電機の予定位置から4km程の場所に位置しているものと考えことから、現時点では営巣が確認された場合の追加調査は予定していません。また、バードストライクの防止に向けては、鳥類の分布状況及び飛翔経路から衝突確率を算出し、衝突確率の高い配置については見直しを検討いたします。</p> <p>②夜間調査については目視での確認が困難なため、鳴き声により把握可能なフクロウ類等を対象とし、鳴き声での判別が困難な種については本調査の対象としておりません。フクロウ類については鳴き声での判別が困難な場合は非繁殖期に樹洞等の確認を実施する等の目視調査にて対応いたします。</p>
4-5	175	表4.2-1(5) 専門家等からの意見の概要及び事業者の対応(専門家E)	1次	<p>ニホンザリガニ及びカワシンジュガイの2種は「種特異的PCR法での実施でよい」との意見がありますが、本手法にて調査する予定はあるのでしょうか。</p> <p>また、環境DNA調査についての意見もありませんが、魚類調査の際に併せて把握するという認識でよろしかったでしょうか。</p>	<p>現時点では底生動物を対象とした調査は、定性採集調査による直接確認を主として考えておりますが、底生動物の中でニホンザリガニやカワシンジュガイについては種特異的PCRによる調査については、魚類調査との同時実施を基本に検討してまいります。</p>

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
4-6	176	表4.2-1(6) 専門家等からの意見の概要及び事業者の対応(専門家F)	1次	植物の専門家から「当該地では大部分が植林地であるため基本的に1季でよいと思われるが、湿地や岩場等があれば、植物相の調査と併せて補足的に実施することも選択肢の一つである。」との意見に対し、「ご助言を踏まえ、植物の調査時期を表4.2-2(32)のとおり設定いたしました。」との事業者の対応に係る記載がありますが、p.219においては植生に係る現地調査の時期を夏と秋の2季としております。湿地や岩場等が確認されない場合には、植生に係る調査時期を1季に減らす可能性があるのかご教示ください。	現地調査で植生が単一であることが確認された場合は1季のみとする可能性があります。本方法書の作成にあたっては想定される最大の回数として2季としました。
4-7	178	表4.2-2(1) 調査、予測及び評価の手法(大気環境)	1次	2.(1)道路交通騒音の状況に関し、天気、風向・風速、気温、湿度を調査する必要性に対する見解をご教示ください。	道路交通騒音の測定については、後述のQ4-10の回答のとおり、安定した天候下において調査を実施いたします。また、風による風雑音の影響が認められた場合も測定は行わないことから、天気、風向及び風速は調査いたしません。気温及び湿度については、騒音の長距離伝搬では重要な要素となりますが、道路交通騒音の調査では音源が測定点の近くにあることから、調査は行いません。
4-8	178 186	表4.2-2(1) 調査、予測及び評価の手法(大気環境)表4.2-2(9) 調査、予測及び評価の手法(大気環境)	1次	影響要因の区分を工事用資材等の搬出入とする騒音2.(3)、振動2.(2)道路構造の状況に関し、「調査地点の道路構造」として把握する具体的な内容をご教示ください。	道路構造として盛土・切土の有無や高架、平面の別を想定しております。
4-9	178 186	表4.2-2(1) 調査、予測及び評価の手法(大気環境)表4.2-2(9) 調査、予測及び評価の手法(大気環境)	1次	影響要因の区分を工事用資材等の搬出入とする騒音2.(4)、振動2.(3)交通量の状況における【現地調査】に関し、走行速度を調査する必要性に対する見解をご教示ください。	交通量の状況の現地調査においては、方向別及び車種別の交通量を調査いたしますが、参考として方向別の車速も確認いたします。
4-10	179 187	表4.2-2(2) 調査、予測及び評価の手法(大気環境)表4.2-2(10) 調査、予測及び評価の手法(大気環境)	1次	影響要因の区分を工事用資材等の搬出入とする騒音及び「5.調査期間等」における(1)【現地調査】について、 ①「平日及び土曜日」とされていますが、日曜・祝日は工事関係車両の出入りはないと解してよろしいでしょうか。 ②「6～22時」とされていますが、工事関係車両の走行時間をどのように想定されているかをご教示ください。 ③騒音及び振動の状況を把握できる調査日は、どのように決定されるのかをご教示ください。	①日曜・祝日は工事を実施しない計画です。 ②調査は「騒音に係る環境基準について」に基づく昼間(6～22時)を対象としていますが、実際に走行する時間は8～17時を予定しております。 ③道路交通騒音及び振動調査においては、「騒音に係る環境基準の評価マニュアル」(環境省、平成27年)の「道路に面する地域編」における以下の記載を参考に決定する考えです。 ・自動車交通量は観光地等を除いて季節的に大きな変動は見られないが、天候等が安定していることから騒音の測定は秋季に行うことが望ましい。また、自動車交通量は曜日により大きく変動するため「平均的な状況」として平日に行うこととする。季節的には秋季以外に行うことも可能であるが、年末年始、帰省時期、夏休み等教育機関の休みの時期は避けるべきである。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
4-11	179	表4.2-2(2) 調査、予測及び評価の手法（大気環境）	1次	影響要因の区分を工事用資材等の搬出入とする騒音10.(2)において、「騒音に係る環境基準について（平成10年環境庁告示第64号）」と、調査及び予測結果との間に整合性が図られているかどうかについて評価するとしていますが、具体的にどのように評価するのかをご教示ください。	方法書p.124,125に記載の「騒音に係る環境基準」との比較を行います。なお、基準値については現地道路の状況を踏まえたと、参考としてA及びB地域（昼間55デシベル以下）等の地域に則した基準値を用いる予定です。
4-12	180 182 184	表4.2-2(3) 調査、予測及び評価の手法（大気環境）表4.2-2(5) 調査、予測及び評価の手法（大気環境）表4.2-2(7) 調査、予測及び評価の手法（大気環境）	1次	建設機械の稼働を要因とする騒音並びに施設の稼働を要因とする騒音及び超低周波音の「3.調査地域」について、対象事業実施区域及びその周囲とは、図4.2-1に示された範囲全域を指すと解してよろしいでしょうか。	建設機械の稼働を要因とする騒音並びに施設の稼働を要因とする騒音及び超低周波音の調査地域については、音の伝搬の特性を踏まえ、騒音に係る環境影響を受けるおそれがある地域として、図4.2-1で示す範囲を示しております。
4-13	180	表4.2-2(3) 調査、予測及び評価の手法（大気環境）	1次	建設機械の稼働を要因とする騒音の5.(1)環境騒音の状況に係る【現地調査】について、 ①「6～22時」とされていますが、建設機械が稼働する時間帯をどのように想定されているかをご教示ください。 ②「1回実施する」とされていますが、「建設機械の稼働による騒音の状況を把握できる時期及び期間」は、具体的にどのように設定するのかをご教示ください。なお、季節に対する見解や土曜・日曜・祝日を休工とするかを含めた回答としてください。	①調査は「騒音に係る環境基準について」に基づく昼間（6～22時）を対象としていますが、実際に建設機械が稼働する時間は8～17時を予定しております。 ②建設機械の稼働に伴う騒音の調査においては、「騒音に係る環境基準の評価マニュアル」（環境省、平成27年）の「一般地域編」における以下の記載を参考にいたします。 ・騒音の測定は、1年を代表すると思われる日を選び行う。通常は騒音レベルが1年のうちで平均的な状況となる日で、土曜日、日曜祝日を除く平日に行う。 なお、日曜・祝日には原則工事を実施いたしませんので、調査の実施は平均的な状況となる期間の平日を選定いたします。また、冬季は休工期間であること、夏季においては虫の鳴き声による影響がある可能性を踏まえ、季節については春季又は秋季にて検討いたします。
4-14	181	表4.2-2(4) 調査、予測及び評価の手法（大気環境）	1次	建設機械の稼働を要因とする騒音の「10.評価の手法」において、「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」との整合性が図られているかを検討する必要はないと判断された理由をご教示ください。また、「騒音に係る環境基準について」との整合性について評価するとしていますが、具体的にどのように評価するのかをご教示ください。	対象事業実施区域に住宅等が隣接していますが、当該住宅の付近における工事は道路の拡幅程度であり、「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」に規定される特定建設作業は行わないことから、当該規制の基準との整合に関する評価は不要と判断いたしました。 建設機械に伴う騒音の予測結果について、参考として「騒音に係る環境基準について」に規定される昼間55デシベルとの比較評価を行う予定です。
4-15	182	表4.2-2(5) 調査、予測及び評価の手法（大気環境）	1次	施設の稼働を要因とする騒音の5.(3)風況において、風況観測塔におけるデータを取得する高さをご教示ください。	風速計は約57m, 49m, 40m, 30m、風向計は約53m, 49m, 40mに設置予定になります。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
4-16	183 184	表4.2-2(6) 調査、予測及び評価の手法（大気環境）表4.2-2(7) 調査、予測及び評価の手法（大気環境）	1次	施設の稼働を要因とする騒音及び超低周波音の5.(1)における【現地調査】については、 ①環境騒音と超低周波音の調査期間は同一期間とするかについて、ご教示ください。 ②72時間の測定において、平日及び休日の測定とすることをご教示ください。なお、回答にあたっては、そのように判断された理由をあわせてご教示ください。	①施設騒音と超低周波音の調査期間は同一期間とします。 ②対象事業実施区域の周囲の主な騒音源が、川のせせらぎ音、風による音、木々の擦れる音等と想定されますので、平日と休日では環境騒音に違いはないと考えているため、測定期間は必ずしも休日も含めた日程とはいたしません。
4-17	187	表4.2-2(10) 調査、予測及び評価の手法（大気環境）	1次	振動の10.(2)において、「振動規制法施行規則」に基づく道路交通振動の要請限度との整合性について評価するとしていますが、具体的にどのように評価することをご教示ください。	方法書p.138に記載の「道路交通振動の要請限度」との比較を行います。なお、基準値については現地道路の状況を踏まえた上で、参考として第1種区域の要請限度の値を用いる予定です。
4-18	188	表4.2-2(11) 騒音及び超低周波音、振動調査地点の設定根拠	1次	①工事用資材等の搬出入に係る調査地点について、設定根拠に「工事関係車両の走行が集中する地点」とありますが、工事関係車両の走行が集中するルートをどのように検討したうえで、調査地点を決定されたのかをご教示ください。 ②工事用資材等の搬出入に係る調査地点について、発電所に係る環境影響評価の手引においては、調査地域について、「原則として、工事用資材等の搬出入に用いる自動車が集まる対象事業実施区域周辺の主要なルートのうち、一般車両台数に比べ、工事用資材等の搬出入に用いる自動車の割合が大きいルートとする。」とされています。このことを踏まえ、主要地方道137号について、環境1の方向と環境2の方向に分岐した後のルート沿道に調査地点を設定する必要はないか、また、一般道道711号の沿道に調査地点を設定する必要はないかについて、事業者の見解をご教示ください。 ③建設機械の稼働に係る調査地点について、対象事業実施区域の南端付近を対象とした調査地点が設定されていません。既存道路の幅幅が想定される範囲と思われますが、当該範囲周辺の住宅等を対象とした調査地点を設定する必要はないと判断された理由をご教示ください。	①②方法書p.15の生コン工場から工事関係車両が走行した場合においても、一般道道711号及び主要地方道137号における工事関係車両の走行台数に変わりはありません。そのため、環境1の方向と環境2の方向に分岐した後のルート沿いではなく、また工事関係車両の主要な走行ルートが分岐する手前の住宅を対象としました。 ③対象事業実施区域の南部の住宅等については、工事は道路の拡幅程度であり、長期に渡って騒音を発生する工事は実施しないことから、当該範囲周辺の住宅等を対象とした調査地点を設定しませんでした。
4-19	190	表4.2-2(12) 調査、予測及び評価の手法（水環境）	1次	2.(1)浮遊物質量の状況に係る【現地調査】について、水温を測定する必要性に対する見解をご教示ください。	浮遊物質量の測定時には参考として水温も測定し記録する考えです。
4-20	190	表4.2-2(12) 調査、予測及び評価の手法（水環境）	1次	「4.調査地点」について、「発電所に係る環境影響評価の手引」では、利水状況を考慮するとされています。このため、調査地点は、利水者と協議の上、決定することが望ましいと考えますが、利水者との協議状況及び今後の協議に係る事業者の見解をご教示ください。 また、調査地点の設定に当たり、把握されている利水状況について、どのような検討をされたのかをご教示ください。	利水者との協議は現時点では未実施ですが、水質調査地点の集水域については、現時点における改変予定箇所を網羅しておりますので、利水への影響について適切に予測及び評価をできるものと考えます。なお、現地調査開始前に協議を実施し、調査地点に関するご意見があれば適宜調査計画に反映する考えです。
4-21	191	表4.2-2(13) 調査、予測及び評価の手法（水環境）	1次	5.(1)浮遊物質量の状況に係る【現地調査】において、「1降雨につき複数回実施」と計画されていますが、どのような段階に分けて採水する計画なのか、また、計画どおり採水するためにどのような対応をとられるのかについて、ご教示ください。	降雨時調査については、降雨前のピンポイント予測をもとに調査の実施を判断いたします。この時、降雨のピークが20時以降3時以前の時間帯と推測される場合には安全面の観点から、原則として調査は実施いたしません。 また、調査当日においてはピンポイント予測や気象レーダーの状況等を踏まえ、降雨ピーク時間帯に60～90分間隔での調査を実施いたします。 調査の回数は降雨ピーク前後に各1,2回、ピーク時間帯に2,3回とし、一雨の調査で4～6回とする予定です。透視度計により濁りが収束したことを確認した上で終了いたします。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
4-22	191	注釈	1次	対象事業実施区域の最寄りの地域気象観測所として遠軽地域気象観測所と丸瀬布地域気象観測所があります (p.31) が、降雨時調査時における時間最大降水量について、遠軽気象観測所のデータを使用するとした理由をご教示ください。	対象事業実施区域からの距離を比較した際、「遠軽地域気象観測所」が約8km、「丸瀬布地域気象観測所」が約11kmであったことから、より最寄りの気象観測所として「遠軽地域気象観測所」を選定いたしました。
4-23	193	図4.2-2(1)水環境の調査位置(浮遊物質量及び流れの状況)	1次	対象事業実施区域の一部(風力発電機No.8の南側、No10の西側、No.12の周囲及び対象事業実施区域の南端)が図に示されているどの集水域からも外れていますが、当該対象事業実施区域は土地の変更をしないということでしょうか。これらの範囲を網羅するよう調査地点が設定されていないことを妥当とする根拠をご教示ください。	現時点における変更予定箇所は方法書p.6のとおりであり、方法書p.193に図示しております集水域で網羅されていると考えます。対象事業実施区域の内、どの集水域にも含まれない範囲は現時点においては変更を予定しておりませんが、今後の事業計画の詳細検討により、万一ご指摘の範囲における変更が想定された場合には、安全を確保したアクセスが可能かどうか確認した上で、湧別川の支流における追加調査を実施いたします。
4-24	194	図4.2-2(2)水環境の調査位置(土質)	1次	調査地点は、対象事業実施区域内の全ての土質を網羅するよう設定されていませんが、妥当な調査地点が設定されていると判断された根拠をお示しください。	土質調査地点については、対象事業実施区域に分布する表層地質の状況を元に検討いたしました。なお、別添資料北海道1次Q4-24のとおり、「安山岩質岩石」における土質4及び「凝灰岩質岩石」における土質5を追加いたします。
4-25	199	表4.2-2(19)調査、予測及び評価の手法(動物)	1次	表下部において「※「陸上風力発電事業の環境影響評価におけるクマタカ・チュウヒの取扱いに関する検討会」(環境省HP、閲覧：令和6年2月)により、1営巣期目の結果を踏まえ、以降の調査を最適化するものとした。」とあり、当該検討会の資料 (http://assess.env.go.jp/4_kentou/4-1_kentou/reportdetail.html?kid=1052#shidai 令和5年3月資料3 p.16)では「1営巣期目の調査結果から基本的考え方を満たす場合、風車サイト周辺のクマタカチュウヒ繁殖個体では以降の調査や予測・評価は不要とする。」とあり、また、「いずれかの環境影響項目で基本的な考え方を満たさない」場合は「事業影響や環境保全措置の検討に資する情報収集のため、2営巣期目の調査を継続。ただし、把握すべき情報の収集に重点化した最適化を検討可能」などの記載へと続くフローが掲載されております。 クマタカ及びチュウヒの繁殖が確認された場合は、当該フローに基づき調査期間を設定するということでしょうか。 また、クマタカ及びチュウヒ以外の希少猛禽類について繁殖が確認された場合の調査期間については、どのように設定するのか、ご教示ください。 なお、希少猛禽類の調査期間について、「猛禽類保護の進め方(改訂版)ー特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについてー」(環境省自然環境局野生生物課、平成24年12月)では「行動を明らかにし、保全措置を検討するには、営巣場所の発見及び少なくとも繁殖が成功した1シーズンを含む2営巣期の調査が望ましい。つまり、2営巣期を含む1.5年以上の調査を行う」との記述があり、また、p.173ページの専門家意見においても「オジロワシやクマタカの「調査期間は2営巣期+半年は確実なものとして実施すること」との意見がありますので、これらを踏まえた上での回答とさせていただきます。	クマタカ及びチュウヒの繁殖が確認された場合は、当該検討会の資料の調査フローに基づき調査期間を設定する方針としております。一方、オジロワシについては専門家ヒアリングにて繁殖が確実であるとのこと意見をいただいていることから、ご意見のとおり2営巣期+半年を含む1.5年の期間を前提として調査を実施いたします。また、その他の希少猛禽類についてはその調査期間に含まれるものと考えております。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
4-26	200	表4.2-2(20) 調査、予測及び評価の手法(動物)	1次	「6.予測の基本的な手法」で、鳥類の衝突については環境省の手引等に基づき定量的に予測することが示されていますが、この場合、個々の風車だけではなく、事業区域全体についての推定結果が得られると思われま。したがって、準備書段階での風車の配置の検討に当たっては、対象事業実施区域及びその周辺の推定結果を踏まえ、配置を検討すべきであり、また、準備書では、この推定結果を地図上に示し、推定結果と風車の配置との関係を明らかにした上で、風車の配置の考え方を説明していただきたいと考えますが、今後の、貴社の対応方針を回答願います。	対象事業実施区域全体も含めた形で、メッシュごと(1メッシュあたり250m×250m)の年間予測衝突突数について推定し、その結果を地図上に可視化し準備書においてお示しいたします。それらの結果も鑑みた上で、その他の要因も考え合わせ、総合的に風力発電機の配置を検討いたします。
4-27	201	表4.2-2(21-1) 調査の手法及び内容(動物)	1次	①小型哺乳類捕獲調査において、シャーマントラップを各20個設置し、墜落缶を適宜設置すると記載されていますが、墜落缶の設置数は一地点あたり(環境区分毎に)少なくとも20~30個とすることが望ましく、また、口径を大きくするよりも、一調査地点あたりの設置エリアを広くし、設置数を増やすほうが、より良い調査が可能になると考えられます。適切な手法による調査を行うことが重要であると考えますが、調査手法に関する事業者の見解を伺います。 ②トラップ類の設置夜数が記載されていませんが、何晩設置する予定でしょうか。また、小型の哺乳類は飢餓に弱いことを考えると、回収時のみの確認とした場合は、対象種の大量死を引き起こす可能性も考えられますが、確認頻度についてどのように考えるか、あわせて伺います。 ③昆虫類の調査について、風力発電機の存在や尾根への建設による影響が懸念される飛翔性昆虫及び吹上昆虫についても調査を実施していただきたいのですが、事業者の見解を伺います。なお、調査を実施される場合は、ブレードの高さも含めて実施されるのかについても見解をお示しください。	①小型哺乳類捕獲調査時の地点とは異なる場所に墜落缶を適宜設定するため、地点あたり20~30個とする定量的な手法ではなく、生息する可能性のある種を確認するための補足的な調査として位置付けております。墜落缶についてはトガリネズミ類の生息環境である湿潤で落葉や腐植層が厚く堆積した草地や林地等が確認された場所を対象とし、捕獲の有無の確認を速やかに行い極力餓死の可能性を低減できるように、確認された環境毎に10個程度設置する予定です。墜落缶についてはトガリネズミ類に適した口径や深さのものを使用いたします。なお、設置数については出羽ら(2016)の設置数を参考といたしました。 ②シャーマントラップは2晩設置とし、1晩単位で捕獲の有無を確認いたします。捕獲されている場合は速やかに記録・放獣し、対象種への負担を軽減いたします。 ③飛翔性昆虫や吹上昆虫についてはFITを空中に設置する調査や尾根に設置するマレーゼトラップ調査等の実施を検討いたしました。採集されたサンプルは種レベルの同定が困難である場合があり、予測評価が困難であることなどから、実施しない考えです。
4-28	203	表4.2-2(26) 鳥類調査地点設定根拠(希少猛禽類調査)表4.2-2(26) 鳥類調査地点設定根拠(希少猛禽類調査)	1次	資料編の資料3の視野範囲図を見ると、風力発電機設置が予定されている箇所の地上視野がいくつか確保できていない地点があります。採餌等の行動が連続で確認できなくなる可能性があります。任意定点等により補完する予定はあるのでしょうか。死角を残したまま調査すると見逃しが発生する可能性があり、そうした場合、見逃された重要種に対しては調査がされないことになるため、上空及び地上の鳥類の利用状況を評価できるような調査設計が必要と考えますが、視野の確保について、事業者の見解を伺います。	各地点からの上空視野及び地上視野については、大型猛禽類の種や行動等の観察が概ね可能となる半径5kmの範囲を対象に、GISを使用し机上計算により算出しております。採餌行動などの地上付近での行動、利用状況を把握するためには地上視野も重要であることから、今後の現地調査に際しては現地での見晴らし状況や出現状況を踏まえて、適宜地点の追加等を検討いたします。
4-29	204	表4.2-2(28) 昆虫類調査地点設定根拠(ビットフォールトラップ法・ライトトラップ法による調査)	1次	専門家ヒアリングで留意が必要な種がいくつか挙げられており、本ヒアリングの後段「調査地点を代表的な植生ごとに1地点とするほうが現実的」の意見を基に調査地点を設定していると思われま。しかし、対象事業実施区域内を占める植林地(トドマツ植林)の割合が大きいいため、もう1地点追加してもよいと考えますが、事業者の見解を伺います。	ヒアリング結果に基づき1地点としておりますが、現地の状況を確認し、トドマツ植林が同様の環境と判断できない等の場合は、地点の追加を検討いたします。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
4-30	205 207 211 212 221 231	図4. 2-4(1)(3)(7)(8)動物の調査位置 図4. 2-5(1)植物の調査範囲(植物相及び植生) 図. 4. 2-6(3)生態系の調査位置	1次	①それぞれの調査の踏査ルートが車両通行が可能部分が大半を占めていますが、現踏査ルートのみで区域内を網羅することは可能なのでしょうか。 ②特に、植生自然度9が分布する区域西部については網羅的な調査が必要と考えますが、現時点で想定している踏査ルート以外のルートも踏査する予定がある場合は、そのルートの選定基準についても合わせてお示しください。 ③車両通行を想定した改変予定箇所が区域中部に存在しますが、改変を予定している以上、こちらも踏査する必要があるのではないのでしょうか。	①②③現地確認時に車両もしくは徒歩にて通行可能であると判断したルートを図示しておりますが、現踏査ルートに加えて、現地調査時には踏査可能な範囲を網羅的に実施する方針としております。特に改変区域や植生自然度9が分布する区域西部については、より注意し調査を実施いたします。
4-31	213	図4. 2-4(9)動物の調査位置(魚類及び底生動物)	1次	風力発電機設置予定位置と河川が重複している箇所があります。直接改変の可能性があれば、少なくとも風力発電機周辺を調査地点として選定する必要があると考えますが、事業者の見解をご教示ください。	Q3-1の回答のとおり、本方法書の作成に当たっては、文献資料調査として、国土交通省作成の「国土数値情報(河川データ)」に基づく河川データを記載しております。一方で事業計画の検討時における現地踏査や環境アセスメントデータベースEADAS(イーダス)及び国土地理院地図においては河川上流の水流が見られません。なお、河川における直接改変がないことを確認するため、今後の環境調査においては常時水流の状況を確認し、準備書においてお示しいたします。また、その結果を踏まえ水環境並びに魚類及び底生動物への影響を予測及び評価いたします。
4-32	221	図4. 2-5(1)植物の調査範囲(植物相及び植生)	1次	植生調査のコドラートが図示されていません。現地及び事業計画の状況を踏まえ適宜設定することですが、具体的な設定条件が分からないので、「現地及び事業計画の状況を踏まえ適宜設定」を具体的に説明してください。	植生調査時に、分布している植物群落の状況等(構成樹種、樹高や下層植生)を踏まえて各群落の典型部分を選び、コドラートを設定いたします。各植物群落の広がりや分布にもよりますが、一つの植物群落について、1~3か所程度のコドラートを設定する予定です。
4-33	226	表4. 2-2(36)注目種選定マトリクス表(生態系)	1次	173ページに、「オジロワシの繁殖については確実」である旨の専門家意見があることを考えると、オジロワシにおける評価基準の「年間を通じて生息が確認できる」と「繁殖している可能性が高い」の項目は「○」となり得るのではないのでしょうか。 このことについて事業者の見解を伺うとともに、選定された種(クマタカ・カラ類)は本地域を特徴づける生態系の上位性種として適切か、事業者の見解を伺います。	ご指摘を踏まえ、オジロワシにおける評価基準の「年間を通じて生息が確認できる」と「繁殖している可能性が高い」の項目を「○」と修正させていただきます。なお、オジロワシは魚食性であるため、主な環境が山地である対象事業実施区域を主要な餌場とするとは考えにくく、餌場の観点も含めると本地域を特徴づける生態系の上位性の注目種としてはクマタカが適切であると判断しております。
4-34	230	図4. 2-6(2)生態系の調査位置(クマタカの餌資源調査)	1次	「8 トドマツ植林」及び「アカエゾマツ植林」に含まれる調査地点が1箇所のみとなっていますが、対象事業実施区域内を占める植林地(トドマツ植林)の割合に対し少なくないでしょうか。もう1地点追加してもよいと考えますが、事業者の見解を伺います。	ヒアリング結果に基づき1地点としておりますが、現地の状況を確認し、トドマツ植林が同様の環境と判断できない等の場合は、地点の追加を検討いたします。
4-35	237	表4. 2-2(42)調査、予測及び評価の手法(景観)	1次	現地調査を行う「新緑期、展葉期、落葉期、積雪期」はそれぞれ何月を想定しているのか、ご教示ください。	新緑期は4~6月、展葉期は7~8月、落葉期は11~12月、積雪期は1~3月を想定しておりますが、調査年の気候や天候、植生の状況も考慮し、季節による眺望の変化が適切に把握できる時期に現地調査を行います。

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
4-36	238	表4.2-2(43) 調査、予測及び評価の手法（景観）	1次	予測の基本的な手法について、「フォトモンタージュ法により、眺望の変化の程度を視覚的表現によって予測する」とありますが、その際、地域住民や主要な眺望点の利用者に対し、フォトモンタージュを活用したアンケートは実施されるでしょうか。影響予測の手法について具体的にご教示願います。	住民説明会等を通じ意見聴取に努めることから、現時点においてはフォトモンタージュを活用したアンケートの実施は予定しておりません。影響予測の手法については、個々人の立場や嗜好など主観に左右されることのない、定量的・客観的な手法を用いることが適切であると考えております。具体的には、今後の手続きにおいて、垂直視野角の算出や、景観資源との位置関係を整理すること等を予定しております。
4-37	239	表4.2-2(44) 景観調査地点の設定根拠	1次	可視領域図で不可視であることから瞰望岩を景観調査地点から除外していますが、瞰望岩のどの地点からの眺望を想定して不可視としているのでしょうか。岩は地上から約78メートルの高さがあり、頂上に登ることもできることから、頂上からの眺望についても考慮するべきと考えますが、事業者の見解を伺います。	可視領域は国土地理院のメッシュ標高データを用いた数値地形モデルによるコンピュータ解析により計算しており、瞰望岩の頂上の標高も反映されております。そのため、地上から約78mの頂上の高さも考慮した上で、地形的に不可視であることを確認しております。
4-38	242 244	表4.2-2(45)・(47) 調査、予測及び評価の手法（人と自然との触れ合いの活動の場）	1次	調査の基本的な手法として、「自治体のホームページや観光パンフレット等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析を行う。」とされており、また、「聞き取りにより、文献その他の資料調査を補足する。」とされていますが、人と自然との触れ合いの活動の場の抽出にあたり、関係自治体や関係団体にヒアリングを実施されますでしょうか。実施しない場合はヒアリングをせず人と自然とのふれあい活動の場が網羅できると考える理由についてお示しください。	人と自然との触れ合いの活動の場の選定にあたって、Q3-7の回答のとおり、現段階では関係市町村等へのヒアリングは実施しておりません。本方法書に対する関係機関や地元の方からのご意見を踏まえ、現地調査前に改めて関係市町村に直近の状況を含めてヒアリングの上、最終的な調査地点を検討いたします。
4-39	242 244	表4.2-2(45) (47) 調査、予測及び評価の手法（人と自然との触れ合いの活動の場）	1次	現地調査期間の「利用状況を考慮した時期に1回」は、それぞれの地点でどの時期を想定しているのでしょうか。	調査時期については、各調査地点の利用可能時期や、オホーツク総合振興局により公表されている「観光入込客数調査」を始めとした対象事業実施区域の周囲の入込状況、本方法書に対する意見等を踏まえて、最終的な調査時期を設定いたします。また、景観をはじめとする他項目の現地調査時等にも随時利用状況や周辺道路の混雑状況を確認するとともに、関係市町村に対し利用状況の傾向についてもヒアリングを行うことで、通年の利用状況を確認する方針です。
4-40	247	表4.2-2(50) 調査、予測及び評価の手法（廃棄物等）	1次	「環境保全措置を踏まえ、工事計画の整理により産業廃棄物及び残土の発生量を予測する」との記載がありますが、経済産業省の「発電所に係る環境影響評価の手引」では、産業廃棄物については「発生量に加えて最終処分量、再生利用量、中間処理量等の把握を通じた調査、予測を行う。」、残土については「発生量に加えて最終処分量、再使用量の把握を通じた調査、予測を行う。」とされているため、発生量のほか、これらの予測が必要と考えますが、事業者の見解を伺います。	産業廃棄物については発生量だけでなく、中間処理の把握も含めて、有効利用量及び処分量についても予測いたします。残土についても発生量だけでなく、盛土による再使用量も踏まえた最終処分量を予測いたします。

5. その他に関する質問

番号	頁	項目等	区分	質問事項	事業者回答
			1次		